



〈自分（たち）でつくるみんなの学校 ～日本一美しい学校を目指して～〉

# 成美っ子

学校だより 令和5年度No.10

## 自分の成長を自覚し、学ぶ楽しさを感じられる子供の育成

研究主任 谷井 瞳

今年度、本校では、主体的・対話的に学びを深める子供の育成を目指して、校内研究に取り組んでいます。そのために、「もっと考えたい」「みんなで話し合いたい」という、子供の問題意識を高め、自己調整しながら学習を進めることができるように、授業を工夫しています。自己調整とは、「〇〇をしてみよう。」「次は、△△していけばよさそうだよ。」「ここは、まだよく分からないから調べよう。」「みんなはどう考えたかな。聞いてみたいよ。」等、問題解決の過程で自分の学習状況を把握し、話し合うことを通して方向性を見直したり、解決の仕方について考えたりすることをいいます。

私の担任する2年生は、2学期末に生活科「作ってあそぼう うごくおもちゃ～遊びランドをひらこう～」の学習を行い、身近にあるものを使って、空き缶アーチェリーや袋ロケット等のおもちゃを作りました。子供たちは、友達と意見を出し合ったり、工夫を教え合ったりしながら、おもちゃをどんどん改良していきました。また、招待した家族や1年生、6年生に喜んでもらいたいという思いをもち、一緒に遊びを楽しむ姿が見られました。この活動では、グループの友達と力を合わせて、新たなおもちゃを作り出したり、招待する人に合わせて遊び方のルールを工夫したりするなど、友達と関わり合うことで、たくさん学びが生まれました。子供たちの振り返りをいくつか紹介します。

- ・1年生のために看板に読みがなをつけて、並ぶ場所が分かるようにしました。呼び込みをしたら、35人も来てくれました。大変だったけど、楽しんでもらえてうれしかったです。
- ・看板に遊び方やルールを書いたけれど、見てもらえませんでした。見てもらう工夫が必要だと思いました。だから、目立つように、メニューみたいなものを作ったり、絵を入れてにぎやかにしました。
- ・ぼくは、1年生が分かるように、やり方を教えてあげました。1年生には、ロケットが入りやすいように、的になる入れ物の数を増やしました。どうしてかという、大人は入れられる人が多かったけれど、1年生だと難しく入れられない人が多いのかなと思ったからです。

このような学びを積み重ねていくことで、自分は何ができていて、何ができていないのか、どうすればできるようになるのかなどについて自分で理解し、自己調整しながら目当てに向かって取り組もうとする態度が育ちます。そして、学習方法や学習活動を自ら考える、「学力」が身に付いていくと考えます。

今後も、自分の成長を自覚し、学ぶ楽しさを感じられる子供の育成に取り組んでいきたいと思えます。



【1年生と一緒に遊ぶ様子】